

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
83	行政バス運行経費	会計	01	一般会計	
51	市内交通機関の利便性を高める	款	02	総務費	
		項	01	総務管理費	
		目	06	企画費	
		細目	102	地域振興経費	
		細々目	08	行政バス運行経費	
担当部課名	伊賀支所総務振興課				
作成者氏名	中島義文	連絡先	45-9111		

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)			
	公共交通機関の空白地域における園児、学生、高齢者等交通弱者及び市民	公共交通機関の空白地域の生活交通手段の確保と高齢者等交通弱者の移動手段を確保します。			
本年度事業内容	<p>運行事業の概要</p> <p>(1)80条バスで、柘植・西柘植線、西柘植・壬生野線、希望ヶ丘線の3路線で、1日18便運行している。</p> <p>(2)直営方式で、29人乗りバス2台で、日・祭日・年末年始を除き毎日運行している。</p> <p>(3)大人100円、高校生以下・障がい者50円、回数券も有り。</p> <p>・JR関西本線、三重交通柘植本線の時刻変更等に対応し、行政バスの時刻・経路等の変更や検討を行いました。</p> <p>・県の補助金交付要領の変更により、新規に補助申請を行いました。</p> <p>・バス運転手の嘱託職員に安全運転とISOを促すため数回の会議を行いました。</p>				
開始年度	平成 14 年度	終了年度	平成 年度	根拠法令・要綱等	道路運送法第80条、16年市条例22号

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員			
正規職員 (人)	0.7	0.7	0.7
人件費合計(A)	5,040	5,040	5,040
②支出内訳(千円)			
事業費(B)	10,658	16,320	10,384
報酬	7,400	7,400	7,400
需用費	2,350	1,931	1,931
共済費	889	819	819
その他	19	6,170	234
合計(A+B)	15,698	21,360	15,424
③財源内訳(千円)			
特定財源			
国県支出金	2,498	6,941	5,275
地方債		4,000	
受益者負担	1,765	1,784	3,115
その他特財			
一般財源	11,435	8,635	7,034
上記①～③に関する特記事項	嘱託職員 5名(1日3名)		

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
収支率(減価償却除く)	%	16.6	17.2	30.0			
バスの買い換え	台		1				
乗客数	人/年	30,129	30,200	30,200			
運行便数	便/年	5,292	5,292	5,292			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
年間利用者数	移動困難性の解消を図る成果として、利用者数を成果指標とします。	人	30,129 目標 ( )	30,200	30,200
			目標 ( )		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等への移動手段として日常の生活交通を確保するため、また、新興住宅団地の地域振興等の観点から総合的に利用できる運行体系を確立し、これまで運行してきました。しかし、料金体系において、事業の存続と平等性の観点から料金体制を見直す必要があります。また、廃止代替バス、柘植本線の動向や支所間との連絡など検討が必要です。</li> <li>伊賀市交通計画協議会を設立し、行政バスのサービス格差是正や運行の効率化等を検討しています。</li> <li>バス運転業務を嘱託職員4名体制で行っていましたが、業務の特殊性や職員の健康面を鑑み5名体制といたしました。</li> </ul>
--

評価	必要性	4	今後、少子高齢化がさらに進む中で、公共交通機関の空白地域における交通弱者等に対し、移動手段として日常の生活交通を確保することは、福祉社会を形成していく上で、最低限の公共サービスであります。しかし、各支所間で異なる料金体系、運行格差の是正等行政バス運行方針の統一化を図る必要があります。	総合評価
	有効性	3		
	達成度	4		
	効率性	3		
				A